

詩篇149篇

I. 新しい歌を主に

- 1 ハレルヤ。主に新しい歌を歌え。聖徒の集まりで主への賛美を。
- 2 イスラエルは、おのれの造り主にあって喜べ。シオンの子らは、おのれの王にあって楽しめ。
- 3 踊りをもって、御名を賛美せよ。タンバリンと立琴をかなでて、主にほめ歌を歌え。

II. 救いによる飾り

- 4 主は、ご自分の民を愛し、救いをもって貧しい者を飾られる。
- 5 聖徒たちは栄光の中で喜び勇め。おのれの床の上で、高らかに歌え。

III. 聖徒たちに託された使命

- 6 彼らの口には、神への称賛、彼らの手には、もろ刃の剣があるように。
- 7 それは国々に復讐し、国民を懲らすため、
- 8 また、鎖で彼らの王たちを、鉄のかせで彼らの貴族たちを縛るため。
- 9 また書きしるされたさばきを彼らの間で行うため。それは、すべての聖徒の誉れである。ハレルヤ。

I. 新しい歌を主に（1～3節）

詩篇 149 篇は、力強い「ハレルヤ」の呼びかけから始まります。しかも、「**新しい歌を歌え**」（1節）と命じられています。「新しい」とは、単に今までとは違う歌を作れということではありません。神は日々、私たちに「新しい状況」で「新しい恵み」を注いでおられます。だから、私たちの賛美もまた、新鮮な感謝と喜びにあふれたものであるべきなのです。また、「**聖徒の集まりで**」（1節）とあるように、賛美は一人で完結するものでもありません。教会という「主に贖われた者たち」の集まりの中で、ともに声を合わせて神を賛美する。そこに、特別な祝福が注がれます。教会の交わりの中で、私たちは神を見上げ、互いに励まし合い、この地上にあって「天の礼拝」の前味を味わっているのです。

「**喜べ**」（2節）とあります。私たちが喜ぶ理由は何でしょうか。それは、自分の状況が良いからではありません。「**造り主**」（2節）にあって、喜ぶのです。自分が神の御手によって創られた存在であり、生まれてきたこと、存在していることそのものが、すでに神の愛のしるしである。それを思うとき、心の底から喜びが湧いてくるのです。また、神は私たちの「**王**」（2節）でもあられます。この世界を治め、導いてくださるお方。だから、どんなに時代が揺れ動いても、このお方にあって、私たちは「**楽しむ**」（2節）ことができるのです。

3節では、賛美が身体全体に及んでいます。踊り、楽器を奏でながら、心から神を讃える。それは、作られた存在としての自然な反応です。今日の私たちの礼拝でも、手を上げたり、体を揺らしながら歌う兄弟姉妹を見ることがあるかもしれません。形式ではなく心から神を喜んでいる姿は、とても美しいものです。神は、硬直した儀式ではなく、生き生きとした、自由な賛美を喜んで受け取られるのです。

Ⅱ．救いによる飾り（４～５節）

４節は、読者に深い慰めを与えてくれます。神は、成功者や完璧な者を愛されるのではありません。むしろ「**貧しい者**」（４節）、砕かれた心を持つ者を愛し、救いという栄光の飾りで覆ってくださるのです。私たちも、それぞれに心の痛みや弱さを抱えています。でも、その傷や欠けにこそ、神の救いの光は差し込むのです。私たちがありのままの姿で神の前に出るとき、主は救いの衣で私たちを包んでくださる。「**救い**」（４節）とは、恥を覆い、尊厳を回復する神の愛のわざです。

賛美は礼拝堂だけのものではありません。自分の部屋、「**おのれの床の上**」（５節）でも、神に向かって歌うことができるのです。誰も見ていない夜、涙する夜——そんなときこそ、静かに神をほめたたえる賛美が天に届くのかもしれません。孤独の中でささやかれる小さな歌も、神にとってはかけがえのないものです。私たちは、どこにいても、何をしていても、栄光の中で喜び勇み、主をたたえる者でありたいと願います。

Ⅲ．聖徒たちに託された使命（６～９節）

６節以下では、賛美と同時に与えられた「使命」が語られます。聖徒たちは、単に天を仰いで賛美するだけでなく、地上において、正義を行なう者として召されています。「**もろ刃の剣**」（６節）とは、物理的な武器ではなく、神のことばの力を表しています。

神のことばは生きていて、力があり、もろ刃の剣よりも鋭い。（ヘブル 4:12）

賛美と祈りをもって、この世の不正と戦う、霊的な戦士。それが、主に贖われた者たちのもう一つの顔なのです。

７～８節で語られるのは、神の正義が地上に実現すること。この世界には、多くの不正と暴虐が満ちています。しかし、最終的には神のさばきが行なわれる。私たちは、「**復讐**」（７節）を個人で果たすように召されているわけではありません。神に信頼し、正義がなされることを信じて歩む。その中で、祈りと証しによって、神の真実をあらわしていくのです。

「**書きしるされたさばきを彼らの間で行う**」（９節）という役割は重いものですが、同時に「**誉れ**」（９節）でもあります。神の正義の証人として立つこと、神の国の到来を指し示すこと、それは、すべての聖徒に与えられた最高の名誉です。

今日も、私たちは——新しい歌を口にし、救いの衣をまとう者として、そして、神の正義をあらわす者として、地上の生涯を歩んでいきたい。ハレルヤ！主に新しい歌を歌い続けましょう！